

今回は、「よくある社員の間違い行動」という小冊子からです。

楽な仕事をかぎ分ける能力が優れている

「要領がいい、悪い」よく聞く言葉だ。あなたも耳にすることがあると思う。実は、私は、この言葉があまり好きではない。

「要領がいい」という言葉は、「もっと要領良くやれよ！」などと、いい意味で使われることもあるが、むしろ「手抜き」「軽率」を連想させる意味で使われることの方が多い。

また、「要領が悪い」という言葉も、ちゃんと考えずに、仕事を進めることが習慣になってしまっている人が、「私は昔から要領が悪くて・・・」などと、言い訳がましく使うことが多いからだ。

話しはそれだが、この「悪い意味での要領の良さ」にたけている人が時々いる。仕事ができない人というよりは、中ぐらいの人や、中の上の人に多い。新人というよりは、何年か働いている中堅社員やベテラン社員の中に多い感じがする。あなたはどうか？

「この仕事は面倒そうだから、自分には回ってこないように、忙しいふりをしてうまく立ち回ろう」「この仕事を私がやるの？面倒なやり方だな。ここまで真面目にやらなくてもいいんじゃない？ちょっと楽なやり方にかえちゃおう！」お客様や依頼者の意向は関係ないのである。

こういった悪い意味での要領のいい仕事の習慣が身につけている人はどうなってしまうだろうか？「楽な仕事＝誰にでもできる仕事」である。会社が急成長中で、忙しくて忙しくて、猫も手も借りたいくらいの状況であれば、必要とされる人材ではあろう。しかし、会社の成長が止まり、あるいは業績が下がったりすれば、「自分から辞めてくれないかぁ・・・」そう周囲から思われる人(存在するだけ)になってしまうのである。

そういう人に限って、ほどほど頭はいいから、「うちは給与が安くて・・・」「社長がねえ・・・」「上司がねえ・・・」「うちの会社は将来がないから、違う会社を見つけないとねえ・・・」と言いながら、何年もその会社にしがみついているものだ。そういった自分でも、結果として許されて生き延びられる会社が本当は少なくない、という事を本能的にかぎ分けているからだ。

難しい仕事に挑戦しないと、自分も成長しないし、自分の存在価値も上がらない。存在価値のない社員は淘汰される。あなたの会社における存在価値は高いのだろうか？あるいは、他の人にはないどんな存在価値があるだろうか？真剣に考えてほしい。

「要領がいい」という言葉は、どのような連想をさせますか？

() ()

ちゃんと考えずに、仕事を進めることが習慣になってしまっている人がよく使う言葉は何ですか？

()

カッコ内を埋めてください

こういった悪い意味での要領のいい仕事の習慣が身につけている人はどうなってしまうだろうか？

() である。会社が急成長中で、忙しくて忙しくて、猫も手も借りたいくらいの状況であれば、必要とされる人材ではあろう。しかし、会社の成長が止まり、あるいは業績が下がったりすれば、「自分から辞めてくれないかぁ・・・」そう周囲から思われる人() になってしまうのである。